

シンポジウム

イスラーム主義運動は、中東政治だけでなく、国際政治の趨勢を左右する巨大なアクター（主体）となっています。

その研究の多くは、イスラーム主義運動の思想や活動の実態解明に注力してきました。しかし、他方、運動の政治的帰結については、事例研究が積み上げられてきたものの、その一般化・理論化は進んでいません。この分析上のアポリアは、社会学と比較政治学のあいだの関心の違いと符合します。

イスラーム主義運動は中東政治に何をもたらしたのか。

本シンポジウムでは、地域研究、社会運動論、比較政治学を横断しながら、この問いについて考えてみたいと思います。



日時:

2017年1月7日(土)

13:30-18:00 (13時開場)

会場:

立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム

登録不要・参加費無料

イスラーム主義運動は 中東政治に何をもたらしたのか ～ 民主化・独裁・内戦 ～



13:30-13:50 「なぜ「帰結」なのか?」
社会運動を説明する、社会運動で説明する」
(末近浩太・立命館大学教授)

13:50-14:20 「エジプトにおけるムスリム同胞団の
「挫折」と権威主義体制の再構築」
(横田貴之・明治大学准教授)

14:20-14:50 「封じ込められる社会運動:
なぜヨルダン「民主化」はムスリム同胞団
の不利となるのか」
(吉川卓郎・立命館アジア太平洋大学准教授)

15:20-15:50 「シリア紛争:「反体制派」のイスラーム化
からイスラーム過激派の台頭まで」
(高岡豊・公益財団法人中東調査会・
上席研究員)

15:50-16:20 「レバノン・ヒズブッラーによるシリア紛争
への軍事介入」
(末近浩太・立命館大学教授)

16:35-
17:15 ディスカッション①(討論者)

■討論者 北澤義之・京都産業大学教授
溝渕正季・名古屋商科大学准教授

17:15-
17:30 ディスカッション②(フロア)

主催:
・科学研究費補助金・基盤研究(B)(海外学術調査)
「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と
政治的帰結に関する比較理論研究」
共催:
・科学研究費補助金・基盤研究(B)(海外学術調査)
「中東と中南米における体制転換の実証的比較研究:
政党・軍・市民社会」
・科学研究費補助金・新学術領域研究(研究領域提案型)
「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」:
計画研究B02「越境的非国家ネットワーク:
国家破綻と紛争」
・立命館グローバル・イノベーション研究機構
(R-GIRO) 研究プログラム「オール立命館による学際
統合型平和研究拠点」

お問い合わせ先: 立命館大学国際関係学部 末近研究
(suechika@ir.ritsume.ac.jp)